社会福祉法人三愛学園　広報誌

第131号

令和2年6月22日発行
さんあい広報タスク

三愛学園

社会福祉法人　三愛学園
〒369-0212　埼玉県深谷市櫛挽 15-2
Tel 048-585-0605　Fax 048-585-0562
Mail　san-ai@isis.ocn.ne.jp
URL　san-ai-jidouyougo.org

児童養護施設**さんあい**　一時保護所**オリーブ**　ファミリーホーム**三愛茜の里**　自立援助ホーム**三愛子ひつじ寮**

令和１年度を振り返って

理事長・施設長　髙瀬 一使徒

新型コロナウイルス関連の対応で少し報告が遅れてしまって恐縮ですが、昨年度の歩みを振り返ってみたいと思います。昨年度終盤の新型コロナウイルスの問題でそれまでの足跡がかき消されてしまった感がいたします。しかし過ぎた日々の歩みをじっくりと振り返っていきますと、例年通り子どもたちと職員の安心・安全が守られたこと、楽しかったことや苦しかったことの連続の中に人知を超えた神様の導きやお守りがあったことを実感しています。特に法人の中期事業計画の仕上げとして、多くの方々のご理解とご支援を頂きながら自立援助ホーム「三愛子ひつじ寮」を生み出せたことは、大きな喜びであり感謝な出来事でした。また、令和１年度も必要な新任職員が確保され４月１日の時点で入所児童が定員一杯の状態でスタートすることができました。この必要な職員を確実に確保するという強みは、過ごしやすい生活の場として設計された園舎、丁寧な実習生のケア、そして積極的な情報発信の結果です。今後もこれを強みに生かして行きたいと思います。

一方、課題としては、発達障害や愛着障害等の理由で増々児童のケアワークが困難となっている中で、職員のストレスへのケアが追い付いていけなかったことが挙げられます。このことは真摯に受け止め、今年度からの職員のメンタルヘルス対応を強化していきます。

子どもたちへのケアワークの成果としては、３年前から参加を再開した埼玉県児童福祉施設親善球技大会（ソフトボール大会）のＢブロック（職員２名が守備要員で参加できるルール）で、並みいる強豪チームを抑えて見事優勝したことを挙げたいと思います。これはグループワークとして多くの子どもたちが参加し真摯に練習に取り組んだことや中高生たちを中心としたチーム力の賜物です。そのチーム力は台風 19 号の際にも発揮されました。10 月 12 日、気象観測始まって以来という超大型台風の直撃を受け、降りしきる大雨で子どもたちの生活するユニットが床上浸水一歩手前まで迫っていました。排水ポンプはフル回転していましたが降雨量の方が多く水量は増すばかりでした。そんな時に職員と中高生男子が外に出て夜 10 時近くまでバケツで排水作業をしてくれたのです。そのお陰でギリギリ浸水を逃れることができました。

また昨年度は、小さな時からさんあいで生活していた４名の児童が無事に高校を卒業し退所して行きました。それぞれの進路は様々ですが、みんな希望する方向に進みました。退所当日は、みんなで玄関に集まって最後の挨拶を交わしました。見送る職員も見送られる子どもにも特別な思いがこみ上げたに違いありません。可愛かった幼児期、楽しいことを沢山共有した小学生当時、手に負えなかった思春期。色々ありましたが、みんな立派に成長してくれました。その成長を支えてくれた職員一人ひとり（退職した方々を含め）に感謝の思いで一杯です。

退所する児童がいれば入所する児童もいます。新たに入所した児童にとっては激動の１年であったに違いありません。沢山の人たち、しかもそれまでの生活習慣や家族背景が違う子どもたちと職員が生活を共にするのですから。でも今はすっかりここでの生活に慣れ楽しく生活しています。

施設には家庭にもあるように安心・安全で衝突や不平等を避けて楽しく生活するためのルールがあります。しかし家庭と違うところは人数が多いことです。誰にとっても 100 点満点な生活環境を作るのは難しいのですが、少しでも 100 点に近づけるよう新年度も子どもたちと職員で意見を出し合って生活して行きたいと思います。

新型コロナウイルス感染予防対策

園に於ける新型コロナウイルス感染予防対策

新型コロナウイルス感染拡大への対応として、最も大切なことは１次予防です。つまり感染を食い止める予防です。これは、臨時休校になった３月下旬から実施していました。行政や学校から示されている外出制限やマスクや手洗い等を徹底することを、全児童を集めて周知し、更に各ホームでも再度周知し徹底いたしました。その後、国の緊急事態宣言を受けて外出制限をさらに強化しました。
４月下旬に、ある職員の発熱欠勤の報告を受けて危機管理委員を招集し２次予防策として緊急に対応マニュアルを作成し、当日よりそのマニュアルに従って職員と児童は行動いたしました。つまり誰かが感染してしまったことを想定し、子どもと職員を守るため感染を最小限に食い止めるマニュアルです。児童の日常生活の細かい行動制限と職員の動き方を決めるにあたり、最初に示したのが、以下の方針です。

対応方針「職員は子どものために、組織は職員のために」

- すべての職員が子どもの安心・安全のために一丸となって対応する。
- 職員の感染やその家族の感染を防ぎ、重篤化防止（年齢や基礎疾患有無）へも最大限の配慮を行う。
- 通常の職責や勤務時間を変更した勤務がある。
- 週休２日は健康上極力維持するが、状況によって超過勤務命令や有給休暇取得に制限を設ける場合がある。

この対応方針をもとに、更に詳細な生活対応マニュアルを作成いたしました。同時に感染児童のケアする隔離部屋の設置や職員用の防護用品で不足している物（ゴーグル、カッパ、ビニール手袋等）の調達をいたしました。
　幸い発熱のあった職員は咽頭炎と判明して事なきを得ましたが、その診断が出て平熱に戻るまでの５日間、危機管理委員会はグループラインにより２４時間体制で児童の様子の情報共有と協議の場を持ちました。その間、児童たちもホーム以外の子との接触をなくすため基本ホームの外に出ることを制限し、外遊び時間は１日40分間のみとしホーム単位で時間割を作って実行しました。また職員への負担を軽減するために、食事は簡単なメニューやレトルト食品を用いることにしました。当然ですがホームのケアワーカーが手薄になる時は、事務所の職員がサポートに入りました。

この緊迫した５日間は対応マニュアルに則って動きましたので、結果的には良い予行訓練になりました。また、子どもたちも事の重大さを理解し様々な制限に従ってくれて感謝でした。

● 教会学校

施設長補佐　平本

新型コロナウィルスの感染拡大に伴い、子ども達は日曜日の教会学校に行くことができなくなりました。そこでインターネット・ビデオ通話で教会と繋がり、礼拝を行うことにしました。子ども達は感染予防対策をして交流ホールに集まり、先生のお話しを聞いたり、歌ったりしました。配信する側も、参加する側も機械の使い方に慣れておらず、うまく繋がらなかったり、先生の振り付けの画面と音声が合わなかったりとチャレンジも多いですが、新しい技術のおかげで、ウィルスの不安がある中でも外部の方たちとの繋がりが維持できていることは感謝です。

～さんあいの取組み～

●食事作り

休校が決定し、春休みに引き続き昼食の用意が必要となったため、急遽献立を修正し、食材を発注し直しましたが、品薄や数量制限、取り扱いがなくなったりしているものもあり、揃わない食材の買い出しに出たりと、食材調達に四苦八苦しつつ、毎日の食材を提供しました。

突然の休校で、昼食だけ厨房で一括調理をすることもありました。食事を届けにいくと、子どもたちが「ありがとう」や「いただきます」などの感謝の言葉を必ずかけてくれました。「おいしかったよ」「また作ってね」など嬉しい言葉をたくさんくれる子どもたちにパワーを貰いました。

時には子ども達が厨房の窓越しに話かけに来てくれて、好きな食べ物や苦手な食べ物のお話、献立に対する意見など、普段ゆっくりと話しをする機会が少ない子どもたちと会話することで、たくさんの意見を聞く事ができ、食に対しての興味関心や、食事を楽しみにしていることなどを感じ、献立の組み替えをしたり、新メニューを取り入れたり、リクエストボックスのメニューは、出来る限り早い段階で献立に組み込む等、子どもたちの声に応えられるようにしました。

また、生活リズムが乱れがちな中高生の為に、手軽に食べられる菓子パンを多く取り入れたところ、菓子パンにつられ朝食を食べる姿が見られ、食事からの働きかけを試行錯誤した日々でもありました。

今回の体験を活かし、安全でおいしいさんあいの食事でみんなが笑顔になれるよう今後も頑張ります。

栄養士　坂田

●学習支援

３月から学校が休校になり、現場職員は幼児さんがいる中での小中学生の宿題対応に四苦八苦。それぞれのホームで勉強時間を決めたり、集中出来る環境を整えたりして対応しました。勉強時間が終わると職員は汗だくのクタクタ…。職員一同、本当に良く頑張りました。中学校の先生は学年ごと、教科ごとに【学習支援プログラム】と称して HP で動画を作成して下さいました。学年ごとに学習室に集めて一緒に視聴しましたが、先生方の丁寧さに驚くばかり。「へ～！」「なるほど！」と職員も非常に勉強になりました。「数学教えて～！」と何度も聞きに来る高校生は、「さんあいって良いよね、教えてくれる大人がいて…」と言ってくれました。子どもたち、職員、学校の先生みんなが頑張った３ヶ月だったと思います！　**女の子ブロック主任　河村**

＊＊＊

支援学級に在籍している児童が多い男の子ブロックは、子どもも職員も課題を終わらせることが非常に大変で、改めて学校で教育を受けられることのありがたさを感じました。塾に通っている中３のＴ君はオンラインでの授業が開始となりました。普段通塾を面倒くさがっているＴ君ですが、さすがに慣れないオンライン授業に堪えたのか「普通に塾に通う方が楽」と話す様子も見られました。　**男の子ブロック主任　加藤**

●ストレス軽減活動

少しでも子ども達のストレス発散になればと、晴れたら川遊び、雨天はクラフト作りの計画を立てました。クラフトでは木工制作をしたり、ゴムの動力で動く段ボールカー、飛び出すカードやペットボトルロケットを作りました。釘とグルーガンを使っての木工制作は大作が出来上がりました。飛び出すカードはポケモンのモンスターボールをイメージしたのもが沢山できました。ペットボトルロケットの発射実験では勢いよく噴出する水と音に子ども達も大興奮！天気のいい日には川遊びに行きました。水温は低く一歩をためらうほどでしたが水を掛け合い全身ずぶぬれになってしまうと一気に気分もあがり、服のまま泳いだり、深場に浸かってガマン比べをしたりと大はしゃぎでした。少しでも子ども達のストレスが軽減されたら嬉しいです。　**SSW 野田**

さんあいインタビュー

統括主任の青木義匡さんは入職 21 年目。今回のインタビューは、みんなが頼りにするその「青木お兄さん」にお話しをうかがいました。

① さんあいで働きたいと思うようになったきっかけは何ですか？

以前、会社勤めをしていた時に障がいを持つ子どもたちのお手伝いをする機会があり、23 歳の時に保育士を目指し専門学校に入学。そこで児童養護施設の存在を知り、今まで培ってきた自分の経験が活かせる場だと感じこの道に進むことにしました。ボランティアやアルバイトを通して複数の施設を体験した中で、さんあいのアットホームな雰囲気と創設者である高瀬美武先生の当事者視点での養育観に惹かれて入職を希望しました。

② 入職前に想像していたことと、実際に働いてみての違いはありましたか？

実習やボランティアを通して子どもの行動は理解しているつもりでしたが、虐待を体験してきた子や発達障がいなどの特徴を抱える子の言動には悩まされました。職員になると、思った以上に書類業務があり苦労しました。今は記録も PC を用いて付けますが、入職当初、書類は全て手書きだったので、宿直時は寝ずに取り組んでいましたね。

この子たちの成長がやりがいにつながっています！

③ 入職してから現在までの間に大きく変わったと思うこと（子ども達、職員、地域など）はありますか？

一番は 2008 年の施設移転です。大舎から小舎に移行し、地域も移動しました。当時の施設長を中心に職員の思いが詰まった素敵な住環境ができた時は本当に感動しました。職員の働き方、子どもの居室構成なども変化し、現在の職員数は 20 年前の倍以上です。これにより、ベテラン職員の職人的支援だけでなく、職員育成を含めたチーム支援が重要になってきたことも大きな変化ですね。温かい地域性や子どもたちの笑顔は今も昔も変わりません。

移転前の園舎。２階は中高生の部屋で、青木お兄さん自身も同じ階に住み込みで働いていました。

引っ越しには地域の方々にもご協力いただき、子どもたち全員が１日で新しい建物に移動できました。

子どもは施設を選べません。職員は一つでも楽しい思い出を一緒に作りたいとの思いで活動を計画しています。

④　入職して、一番辛かったことと一番うれしかったことは何ですか？

子どもとの関わりの中で悩みは尽きませんね。思春期の反抗や特徴とわかっていても自分に向けられる暴言暴力は辛いです。職員も人ですからそんなに強くありません。今のように年休は取れない、時間外勤務は当たり前で手当ても付かない、取りたいときに時に休みもとれない状況もありましたが覚悟して入ったので苦ではなかったです。

子どもの成長＝喜びです。関わった子が卒園して就職、進学、成人、結婚といった過程を経て、同じ社会人として一緒にお酒を飲めた時などは格別の喜びがあります。

⑤　仕事の支えになっていることはなんでしょうか？

家族、同僚、卒園生、子ども達の存在ですね。仕事に関しては、同じ業界で働く職員が集まる関東ブロックの野球大会で埼玉チームの仲間との共感できる時間は大きな支えです。

関東ブロックの野球大会で、埼玉県内の他施設職員と共に（写真中央）

⑥　ストレスを解消するために何かしていますか？

疲れを感じた時は寝ること。体調を整えたら遊ぶことです。野球、釣り、キャンプなど自然の中で活動するとリフレッシュできます。あとは仲間とのお酒ですかね。

⑦　今後の希望や抱負はありますか？

新しい養育の形を見出すことです。過去にとらわれず子どものニーズに合わせた変革が必要な時代です。一般家庭の常識や価値観も変わりつつある現在、まずは職員としてその変化についていくこと。無論、法や規制を守りながらも可能な限り子どもが納得でき、職員も余裕が持てる生活スタイルを作りたいですね。

⑧　これから児童養護施設で働くことを希望している方々へメッセージをお願いします。

正直、昔はブラック（企業）と言われても仕方ない待遇でしたが今は違います。時間外業務もありますが、手当ては付きますし、年休・リフレッシュ休暇など連休もとりやすくなっています。子どもの成長に長く関わる分、責任もありますがやりがいもあります。

今回の新型コロナ・ウィルスのような緊急時には、職員には子どもの安全・安心を守るために危機管理のための対応や、勤務時間外も行動の自粛が求められることがあります。他の職種より求められることが厳しいかも知れませんが、それだけやりがいのある仕事ですし、常に必要とされる業種とも言えます。対象児童の年齢も２歳～18歳と幅広く、行事や活動など自分の強みを活かせる機会も多いはずです。子どもたちは一緒に笑い、泣き、悩み、考えてくれる大人を待っています。この道を志す人が増えることを願っています。

いつもと違う登校日

分散登校が始まって、学校の宿題や荷物が多かったり昼食を持たせたり、学校に行く日が学校ごとに違ったりと休校中とは違う慌ただしい日々が始まっています。「明日は〇〇ちゃんの登校日」と子どもより私の方が焦ってしまうこともあります。少しずつ学校が始まりホッと安心する気持ちと今まで休校期間が長かった分、子ども達が学校生活を楽しむことが出来るのかという不安もあります。子ども達が安心して学校生活を送れるよう一番近くで支えていきたいです。（山本）

オリーブの日々

緊急事態宣言が出されてからは、気分転換になっていた外出が出来なくなり、子ども達もストレスが溜まっています。ストレスが少しでも軽減できるように近所を散歩したり、一緒にトランプやピアノを弾いたりと職員との会話も楽しみながら一対一の関わりを大切にしました。生活の中では、コミュニケーションの一つとして、小・中学生と一緒に料理をすることも意識しました。料理を通し、褒める機会も増え、子ども達は喜んでいました。年齢層も幅広いので衝突することは多いですが、日々楽しく過ごしています。（羽根田）

茜の里の日々

「おはよう」「おやすみ」当たり前の日常の中に養育があります。朝起きて子ども達と顔を合わせ、食事を共にして寝る。小規模で落ち着いた暮らし、そんな日々がとても大切に思います。今更ですが、子ども達と一緒に暮らし生きてゆく、それが“三愛茜の里”の子育てです。
一日でも早く、新型コロナウイルスが収束し皆が安心した生活が送れることを願っています。（茜の里　野口）

さんあいの畑

今はジャガイモの花が咲いています。葉も大きく育ち元気いっぱいです。子どもたちと一緒に芋掘りをして、ジャガバター、ポテトサラダ、コロッケなど作れたら最高です。それから、サツマイモの苗とキュウリ、ゴーヤ、なす、ピーマン、トマトの苗も植えました。キュウリは毎年植えて子ども達と一緒に収穫しマヨネーズをたっぷりのせ丸かじりします。子ども達は口の周りをマヨネーズだらけにして口いっぱい頬張ります。食べっぷりはワイルドですよ！
（野田）

リモートヨガ教室

新型コロナウィルスの影響で、様々なイベントや行事が中止、延期になる中、ヨガ・インストラクターの栗原ゆりさん（ヨガ教室ノア所属）から、インターネット・ビデオ通話を利用してヨガ教室を開催してくださるとのお申し出がありました。６月13日に第１回を交流ホールにて開催。参加した子ども達の大半がヨガ初体験でしたが、上手に体を動かし様々なポーズを習いました。終わった後も「またやりたい！」「今度はいつ？」と積極的な声が聴かれました。栗原先生には引き続きご指導をいただきます。

（平本）

年間目標

さんあいでは今年度より、新しい取り組みとして各ホームで年間目標を立てることにした。目的は「みんなが楽しく気持ちよく生活するために」子どもたちが参加して職員と話し合う場を持つことである。施設全体の目標は、①あいさつをする　②ありがとうやごめんなさいを言い合う、の二つであり、これは各ホームの共通目標となった。あるホームの目標は、数回のホーム会議で話し合った結果、「自分の言葉に責任をもつ」になった。これは子どもたち自身が自分への戒めとしての言葉か、或いは職員に対するけん制からか不明であるが、子どもたちが主導で決めた目標だ。どれだけ守れるか不透明だが、年齢の違う子どもたちがどうしたら楽しい生活ができるか話し合って決めたことに大きな意味があると思っている。

（ブログより）

いつも暖かいご支援ありがとうございます。
＊ご寄付は同封させて頂いた振込用紙、又は下記の口座にお願い致します。連絡先を入れて下さい。
埼玉りそな　岡部支店　普　0058888

編集後記
2021年には深谷市出身の“渋沢栄一”を題材としたNHK大河ドラマ「晴天を衝け」の放送が予定されています。2024年は新一万円札の肖像画にも栄一翁が決定しています。新型コロナウイルスの影響で撮影など心配されますが、それでも嬉しいニュースは心を元気にしてくれます。日々の養育の中にも嬉しいニュースを沢山見つけて心を元気に毎日を過ごしていきたいです。
（広報タスク一同）